

【資料 3】

脱炭素シナリオと再生可能エネルギー導入目標(素案)

近江八幡市企画課



1 2050年脱炭素実現に向けた方針

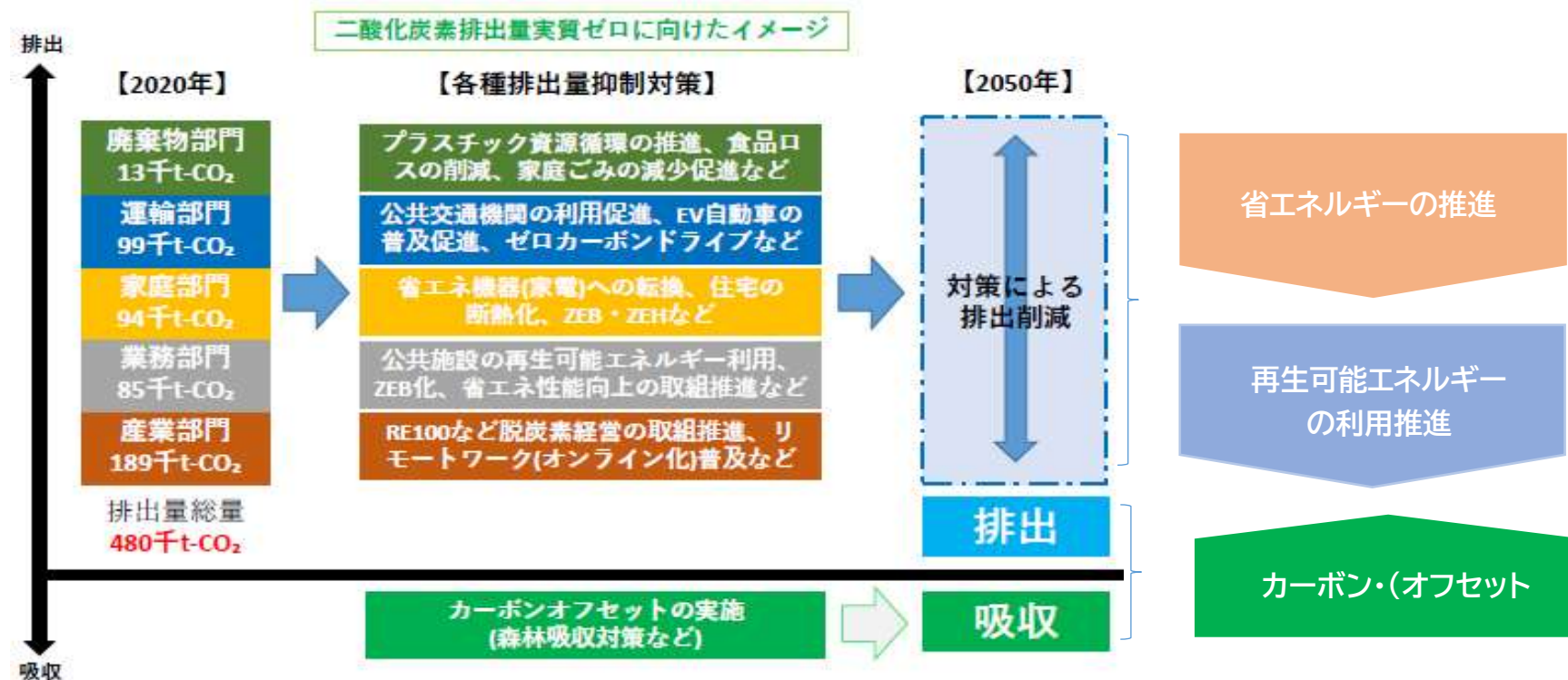
○2050年脱炭素実現に向けた過程

①目標年度

本計画の目標年度は2050年度とし、2030年度を短期目標、2040年度を中期目標年度とします。

本計画で定める本市の二酸化炭素排出総量は、2030年度において、基準年度(2013年度)の50%、2050年度において100%(カーボンニュートラルの実現)と設定します。

②脱炭素実現に向けた方針

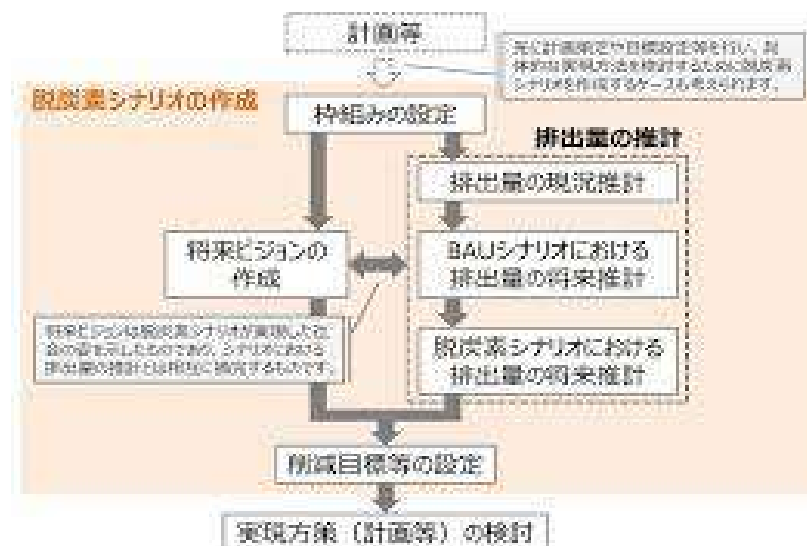
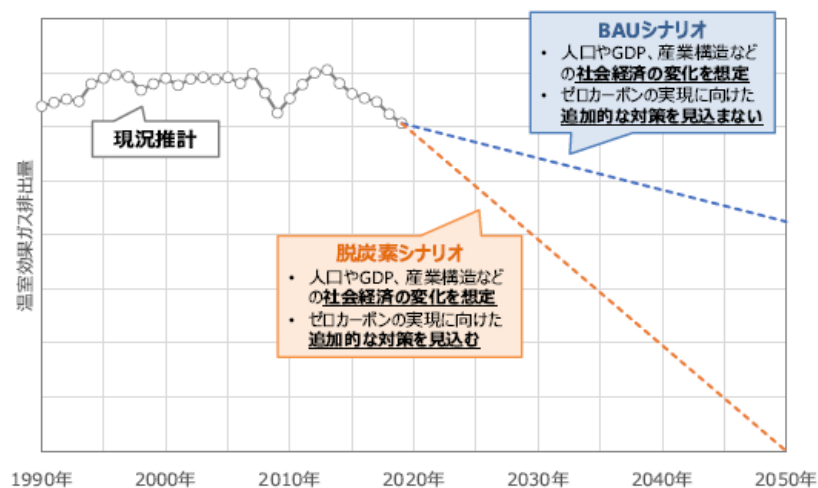


③各シナリオの説明

2050年脱炭素社会実現に向けた長期的な戦略を検討するため、2つの脱炭素シナリオを設定し、比較検討を行います。それぞれのシナリオの概要等については、以下のとおり設定します。

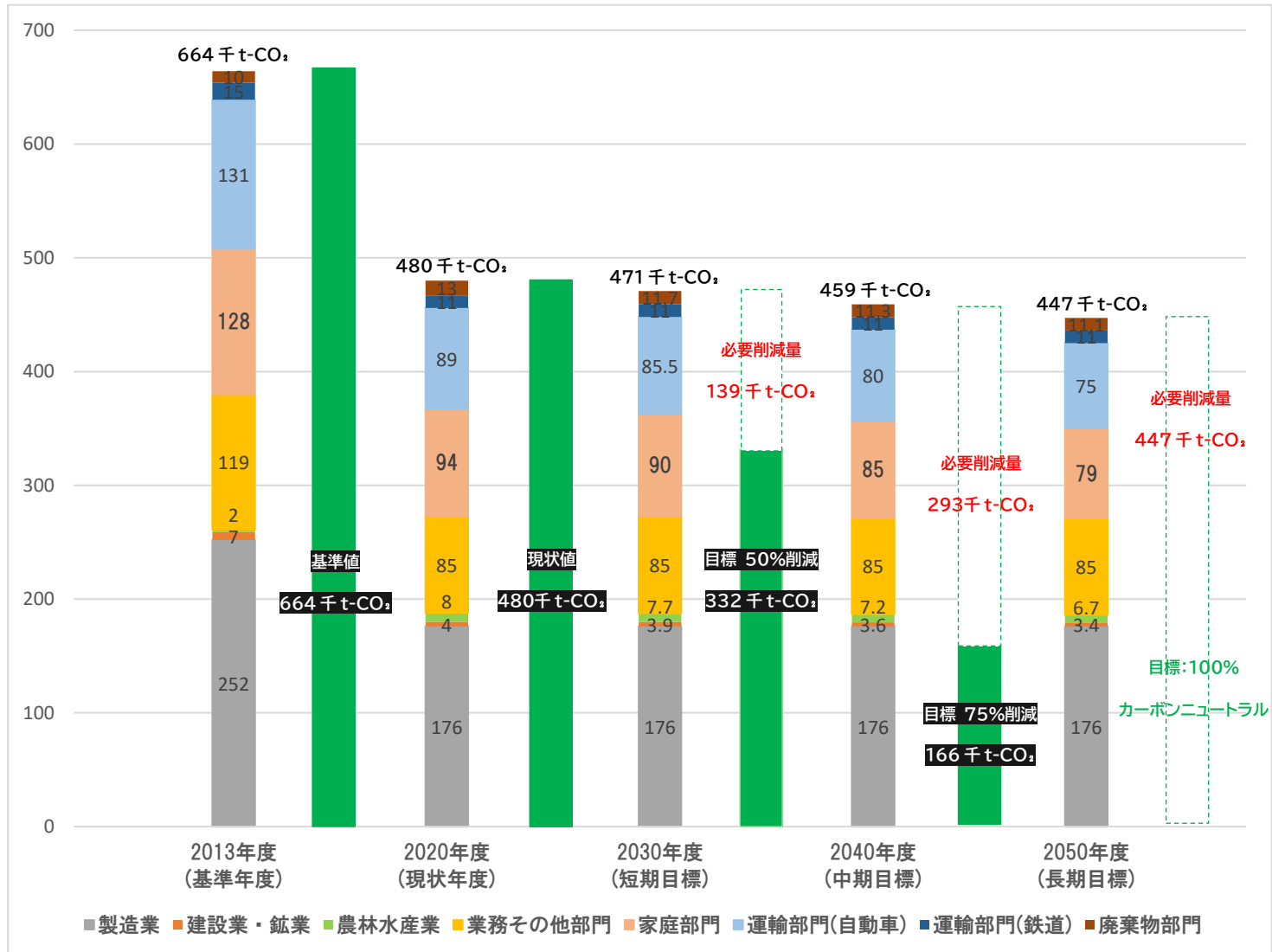
各シナリオ	シナリオの概要
① BAU(現状趨勢)シナリオ	人口や経済などの活動量の変化は見込みつつ、二酸化炭素排出削減に向けた追加的な対策を見込まないまま推移した場合の将来の二酸化炭素排出量を推計したもの。
② 脱炭素シナリオ	BAUシナリオにおける活動量の変化に加えて、脱炭素実現に向け、本市脱炭素プロジェクト等に掲げる省エネ・再エネ施策の追加導入を想定したシナリオ。

(参考)脱炭素シナリオの作成方法



2 脱炭素シナリオの比較・検討

①BAU(現状趨勢)シナリオにおける推計



○目標年度
 2030年度: 50%削減
 排出量: 332千t-CO₂
 2040年度: 75%削減
 排出量: 166千t-CO₂
 2050年度: 100%削減
 排出量: 0t-CO₂

○BAU 推計値
 2030年度: 30%削減
 排出量: 471千t-CO₂
 2040年度: 31%削減
 排出量: 459千t-CO₂
 2050年度: 33%削減
 排出量: 447千t-CO₂



対策を講じないケースでは、2050年度には基準年度の約33%の削減率に留まり、447千トンの二酸化炭素が排出される。

②再生可能エネルギー導入目標

(1)現実目標

現実目標とは、再生可能エネルギー導入量の過去の経年変化を踏まえ、今後、本市が脱炭素プロジェクトに掲げる各種施策を推進した場合の導入目標です。

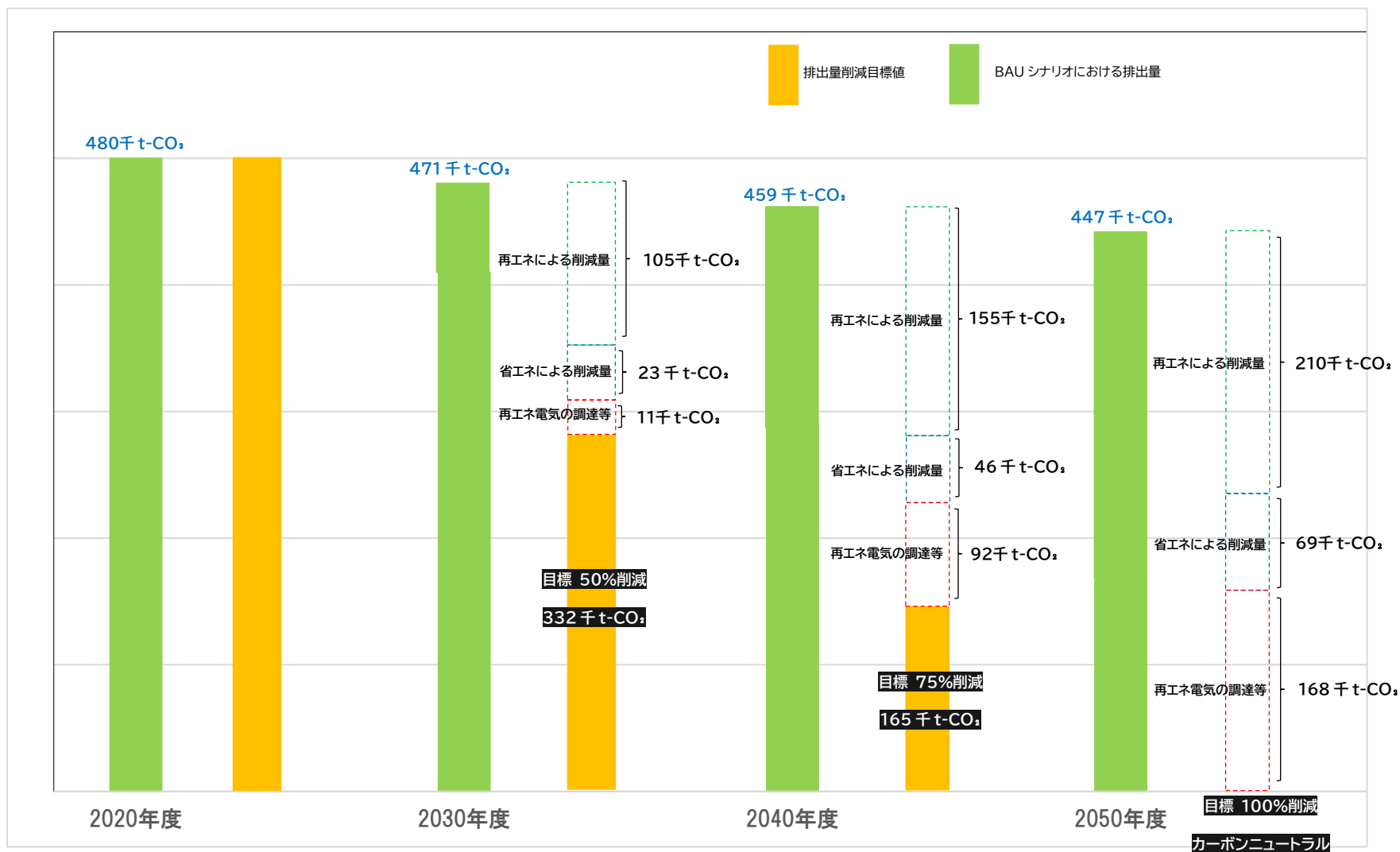
区分	現状値(2020年度)	2030年度	2040年度	2050年度
太陽光発電	42,306千 kW	182,592 千 kW	27,873 千 kW	365,184 千 kW
バイオマス発電	495kW	-	2,475kW	4,950kW
水力発電	35kW	目標なし	目標なし	目標なし
CO ₂ 削減見込み	24 千 t-CO ₂	105千 t-CO ₂	155千 t-CO ₂	210千 t-CO ₂

(2)先導(チャレンジ)目標

チャレンジ目標とは、今後、本市が脱炭素プロジェクトに掲げる各種施策を推進し、再生可能エネルギーの普及がさらに拡大したと仮定した場合の目標です。

区分	現状値(2020年度)	2030年度	2040年度	2050年度
太陽光発電	42,306千 kW	211,530千 kW	423,060千 kW	634,590 千 kW
バイオマス発電	495kW	-	4,950kW	7,425kW
水力発電	35kW	175kW	350kW	525kW
CO ₂ 削減見込み	24 千 t-CO ₂	120 千 t-CO ₂	240 千 t-CO ₂	360 千 t-CO ₂

②脱炭素シナリオにおける推計



※森林吸収による削減量は加味していない。